

いしかわの遺跡

大きな！木製品調査中



せいこう こうぞうせん
精巧な構造船の部材を測ってます。

平成12・13年度に国道8号線（小松バイパス）改築工事に伴う小松市千代・能美遺跡の発掘調査が行われました。この調査から古墳時代の川跡が見つかり、中から約2,000点ものたくさんの木製品が出土しました。

今年の4月からこの木製品の本格的な整理・記録が始まりました。細かく観察していくと何に使ったものか、どのようにして作ったのかわかります。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731
E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp
ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

普及啓発 その1 団体施設見学・体験学習

埋蔵文化財センターは、県内の歴史と文化を伝える埋蔵文化財を発掘調査し、出土品の整理・保管をするとともに、これらを活用した学校教育と生涯学習の場として、ふるさとの歴史を学ぶことができる開放型の施設です。文化財に対する関心と理解を深めるための施設見学や、平成13年5月にオープンした「古代体験ひろば」での古代体験学習などに利用できます。平成13年度は、団体の施設見学到137団体4,758人、団体の体験学習に70団体2,405人の利用がありました。

施設見学

センターの仕事や、県内の遺跡・遺物を知るための4つの見学コースがあり、いずれも職員がわかりやすく解説をおこないます。



出土品整理作業見学のようすです。
(全体見学コース約60分・施設見学コース約45分)



展示室見学では、いろいろな質問ができます。
(展示室見学コース約30分)

団体体験

学校や生涯学習などの団体を対象として、古代体験ひろばでおこないます。いくつかの古代体験をとおして特定のテーマを学ぶ「テーマ体験」と、古代人のワザを学ぶ「ものづくり体験」があります。



石皿を使ってクルミを割っています。「縄文時代の暮らしにふれる」の体験のひとつです。

テーマ体験 (標準体験人数40人)
「縄文時代の暮らしにふれる(90分)」、
「古代の衣装(60分)」、
「弥生の食を考える(120分)」、
「火おこしの歴史(60分)」

ものづくり体験
【標準人数40人】
「まが玉づくり(90分)」、
「土版づくり(60分)」、
「土鈴づくり(60分)」、
「土器づくり(120分)」、
「土偶づくり(60分)」

【標準人数20人】
「アンギン布づくり(60分)」、
「縄文かごづくり(90分)」、
「土器たくほん拓本(30分)」

小学校3年生以下の児童の場合、体験できないコースや保護者の同伴が必要なコースがあります。



まが玉の穴をあけているところです。



縄文土器づくり体験中。うまくできているでしょ。

団体での施設見学、体験は事前に予約が必要です。詳しくは企画課までお問い合わせ下さい。

催しものと展示のご案内(5~9月)

いずれも参加・体験料金は必要ありません。

学習講座

- ・古代体験ひろばを会場におこなう、個人や家族連れを対象とした体験講座です。
- ・事前に電話での申し込みが必要です。申し込みは、先着順で受け付け、募集人数に達し次第締め切りとなります。

講座名	実施日	募集人数	募集対象	内容	申し込み期間
まが玉づくり	5月25日(土)	20名	小学校5年生~一般	石のまが玉、ガラス小玉で飾った自分だけの首飾りをつくります。	4/22~5/21
古代機織り体験	6月22日(土)	20名	小学校5年生~一般	縄文布「アンギン」や、原始機での弥生布の製作をとおして、衣の歴史を探ります。	5/20~6/18
縄文土器づくり 野焼き	7月6日(土) 8月24日(土)	30名	中学生~一般	遺跡から出た土器をみて縄文土器をつくり、野焼きをおこなう2日間の講座です。	6/3~7/2
弥生土器づくり 野焼き	7月20日(土・祝) 8月24日(土)	30名	中学生~一般	遺跡から出た土器をみて弥生土器をつくり、野焼きをおこなう2日間の講座です。	6/17~7/16
親と子の縄文土器づくり 野焼き	7月28日(日) 8月24日(土)	15組 30名	小学校4~6年生と、その保護者	遺跡から出た土器をみて縄文土器をつくり、野焼きをおこなう2日間の講座です。	6/24~7/23
親と子のまが玉づくり	9月8日(日)	20組 40人	小学校4~6年生と、その保護者	石のまが玉づくりをとおして、衣の歴史を学びます。	8/5~9/6

親と子の発掘体験教室

- ・夏休みに県内2ヶ所の発掘調査現場を会場におこなう、発掘体験教室です。
- ・事前に電話での申し込みが必要です。申し込みは、先着順で受け付け、募集人数に達し次第締め切りとなります。

実施日	募集開始日	募集対象
8月3日(土)、8月17日(土)	7月2日~	小学校4~6年生と、その保護者20組

個人随時体験

- ・古代体験ひろばでおこなう、個人や家族連れを対象とした体験で、予約は必要ありません。
- ・火おこし、まが玉づくりなど体験メニューは月ごとに変わり、休日は体験メニューが増えます。

まいぶん考古学講座

- ・考古学や埋蔵文化財に関するテーマを、センター職員が講師となり解説します。今年は古代能登の生産をテーマにしました。

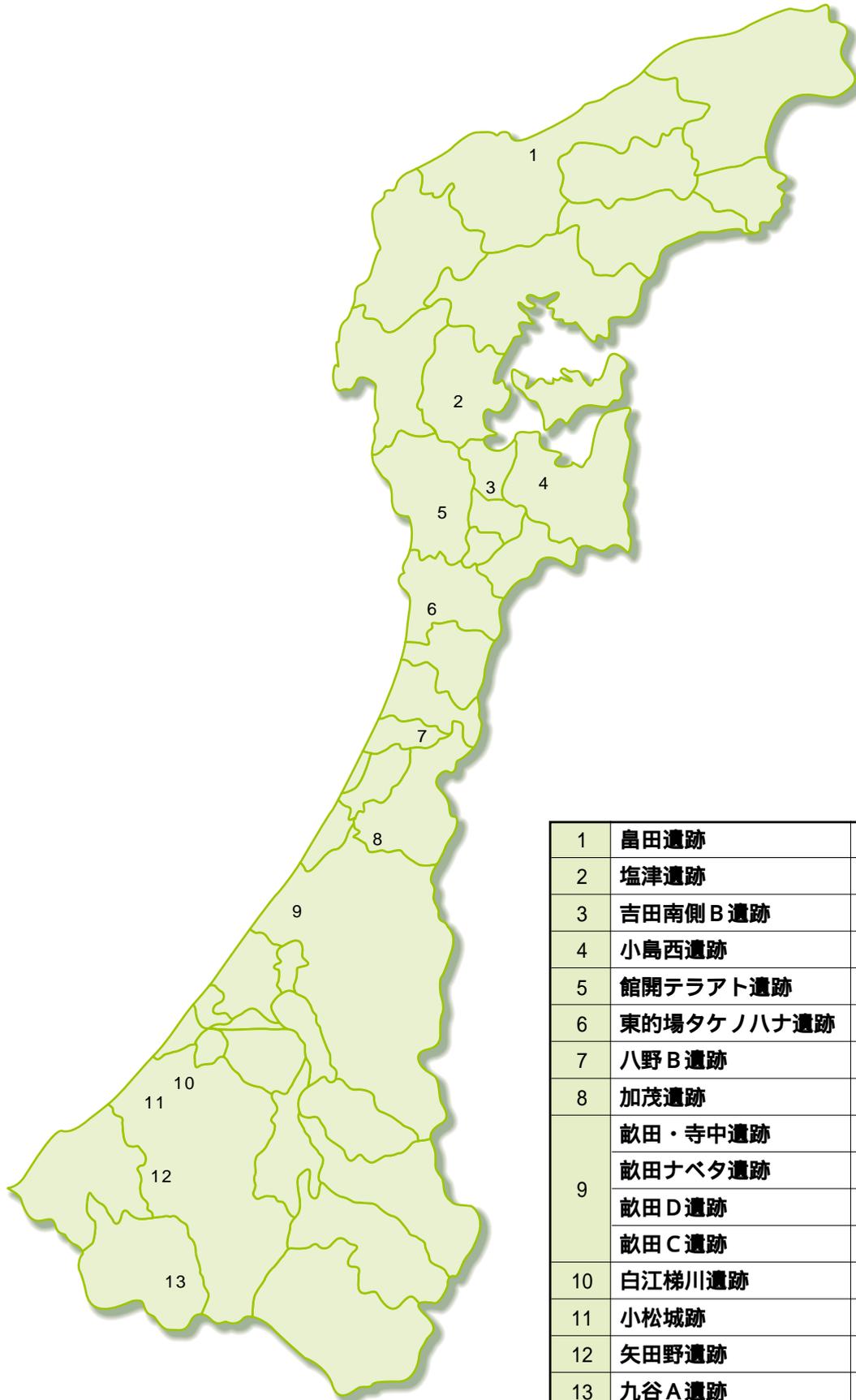
日時	講座名	講師
5/19(日)	「古代の塩づくり 珠洲市鶴島遺跡を中心に」 「古代・中世の木製品 田鶴浜町三引遺跡出土品を通して」 「古代の製鉄について 能登地域の最近の調査成果から」	調査第4課 立原秀明
6/16(日)		調査第2課 湊屋玲美
7/14(日)		調査第1課 中島俊一

企画展・ホール展

- ・近年の発掘調査成果の中から選んだテーマによる企画展は、8月1日(木)~31日(土)に当センター特設会場でおこないます。
- ・発掘調査の最新情報を中心としたホール展は、年数回展示内容を更新します。

センターの催しものや、現地説明会の案内などを郵送する
情報提供サービス「まいぶん友の会」会員を受付中です。年会費1,000円。

平成14年度 発掘調査遺跡(4月～7月)



1	畠田遺跡	輪島市鳳至町
2	塩津遺跡	中島町塩津
3	吉田南側B遺跡	田鶴浜町吉田
4	小島西遺跡	七尾市小島町
5	館開テラアト遺跡	志賀町館開
6	東の場タケノ八ナ遺跡	羽咋市東の場町
7	八野B遺跡	高松町八野
8	加茂遺跡	津幡町加茂
9	畝田・寺中遺跡	金沢市畝田西他
	畝田ナベタ遺跡	金沢市畝田西他
	畝田D遺跡	金沢市畝田西他
	畝田C遺跡	金沢市畝田西他
10	白江梯川遺跡	小松市白江町
11	小松城跡	小松市丸内町
12	矢田野遺跡	小松市矢田野町
13	九谷A遺跡	山中町九谷町

出土品整理 その4 復元

博物館や当センターの展示室には、完全な形の土器が展示されています。しかし、その土器の中には色の変わっている部分があります。なぜ、色が変わっているのかお気づきでしょうか？

実は色の違っている部分は、石膏や樹脂でできているのです。土器を実測するとき、その形が明らかになっていることはきわめてまれなことです。土器は、土中に長い年月埋まっていたため、壊れたりもろくなったりします。また、出土する土器のほとんどは使えなくなったため捨てられたものであることから、もとの形に戻せるだけの破片がはじめからない、ということがあります。その場合、もとの形を考えなければなりません。そこで、復元という石膏や樹脂を使って土器の足りない箇所をうめる作業を行うのです。復元は、土器を実測するときの大きな手助けになります。土器の上下がつながらなかつたり、あるいはくつつく部分が少ないために不安定なものを復元することによって実測をしやすくします。

復元は、石膏をうまく土器につかないように破片の足りない部分を補うだけならそれほど難しい作業でもないので、原形をほとんどとどめていないようなものの場合、その復元には慎重を期さなければなりません。かなりの部分が石膏となり推測部分が多くなってくるからです。推測するためには、もとの形がどうだったかを知っておかなければなりません。



石膏を入れる前に接合が正しいかチェックします。

また、展示用に復元した土器は、石膏の場合は真っ白で補ったことがはっきりとわかります。樹脂の場合も、色がついていて土器の色と見分けのつかないものもありますが、そのままでははっきりと違いがわかります。そこで表面に色を塗って、見分けがつかないようにします。ただし、あまり実際の土器と見分けをつかなくすると本物の土器を観察するのに混乱してしまいます。この場合、目立たないように着色して補ったことがわかるようにしておくのがよいと思います。

展示するためのもの、出土品整理のために行うもの、どちらも弱い遺物を補強するということと元の形をわかりやすくするというのでは同じです。違いがあるとすれば「見せる」ことを意識しているか、「記録」することを意識しているかでしょう。

みなさんも復元、やってみませんか。そうそう、野焼きをして割れてしまった土器を復元するというのも楽しいかもしれませんね。



復元作業中。石膏を土器に塗らないように慎重に。



復元が終わった土器。

平成13年度発掘調査から 館開野開遺跡

たちひらきのびらき

館開野開遺跡は、羽咋郡志賀町館開の山裾にある遺跡です。今回の発掘調査では、堀、掘立柱建物、竪穴状遺構、井戸などが見つかりました。

堀は外敵の侵入を防ぐための施設です。箱堀と薬研堀の2種類を確認しました。箱堀は逆台形状の断面、薬研堀はV字状の断面をしており、薬研堀は箱堀よりも防御機能が高いとされています。これらの堀は、東西約120m、南北約50mを方形に巡り、堀の横には土塁か柵が築かれていたようです。

掘立柱建物や竪穴、井戸は、区画した堀の周辺から見つかりました。掘立柱建物の大きさは3間×2間(6m×4m)でした。竪穴は、1辺8mの方形と直径4mの円形の2種類を確認しました。竪穴の近くからはたくさんの鉄くず(鉄滓てつさいと言います)が出ているので、鉄の製品をつくるときの作業場、もしくは倉庫だったと考えられます。井戸は、掘立柱建物や竪穴の脇にあり、飲水や鉄製品づくりの作業に使われていたと思われます。

館開の地名は、中世の有力武士徳田氏の館跡に由来すると伝えられています。今回の発掘調査でこれまで地名や伝承でしかわからなかった館の存在が見えてきました。



方形竪穴(掘削前)



方形竪穴(掘削後)



薬研堀掘削状況



掘立柱建物



井戸

訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

町指定史跡 鶴来町舟岡山遺跡

ふなおやかま
舟岡山遺跡は鶴来町八幡町にある舟岡山中腹の平坦地にある縄文時代中期の集落の遺跡です。発掘調査は戦後まもない昭和23年から数回にわたっておこなわれました。これらの調査から竪穴住居の中にある石で囲んだ炉の跡などが見つかり、縄文土器、打製・磨製石斧、たたき石などの遺物が大量に出土しました。この遺跡の発掘は学校の先生や地元の有志が集まって行われており、県内で初めて本格的な発掘調査となりました。この調査によって、県内の考古学研究が一層進展しました。

現在、発掘された場所には3棟の竪穴住居が復元され一般公開されています。また、出土した遺物は遺跡に隣接する白山青年の家及び町立博物館で一部展示しております。



復元された竪穴住居

町指定史跡 鶴来町舟岡城跡

舟岡山遺跡の背後にそびえ立つ舟岡山の山頂にある山城です。室町時代に築城され、戦国末期には前田利家の家臣高島織部が入ったとされています。城は頂上付近の通称「本丸」を中心に平坦面（曲輪）や石垣が築かれ、周囲には空堀が巡っています。県内に石垣をもった城は非常に少なく、大変貴重なものです。現在、城跡を散策できる遊歩道が通っており、気軽に戦国時代の想いをはせることができます。



石垣で築かれた櫓台の跡



空堀の様子(周りに土塁がそびえています。)

交通：北陸鉄道石川線「加賀一宮駅」下車徒歩15分
住所：石川郡鶴来町八幡町地内
お問い合わせ：鶴来町立博物館 Tel 0761 - 93 - 1522